



左、和モダンな空間に合うよう造作された洗面化粧台。右、オールドパカラの照明と存在感のある無垢一枚板が印象的トイレ空間



横間や書院は旧家のモノを活用。今では珍しい台湾産という稀少な木材が使われている

寒さを防ぎ、一年を通して快適に過ごせるといふ。さらに、室内の塗り壁にはスペイン漆喰を採用。主成分は大石の粉というスペイン漆喰は、日本のものよりも吸湿性や放湿性が高いのが特徴だ。いい意味で新築らしくないこの家は、デザイン性と機能性を兼ね備えており、昔から暮らしていたかのような安心感がある。



favorite!
わが家のここがお気に入り!

【リビング】

薪ストーブ横に積まれた薪ストックカーもインテリアとして活躍。ご主人も奥さまもこのリビングのソファに寄り添って読書を楽しむことに幸せを感じている



新築なのに懐かしい
風情たっぷりの家が完成

1階は、玄関を入って左手にリビング・ダイニングがあり、右手には、旧家と同じく二階続きの和室がある。大きく変化したのは、窓のサイズ。約50年前に建てた家は日中も薄暗く、照明をつけておくような家だったが、リビングには大きな窓があり、晴れた日は眩しくなるほどの採光がある。また、かつては隙間風が入り込む寒かったけれど、今回は複層ガラスを採用し、断熱性に優れ、外気が室内に伝わりづらい構造となっている。

また、キッチンやリビングに高窓を設けることで自然光が入り、日中は照明要らずになった。また、南北それぞれに窓を設けたことで、風通しが良く自然換気能力も高まった。

天井部分は自然塗料で塗装した杉板を貼っているが、色味に濃淡を出すために、場所によって塗布量を変えるなどの工夫を施した。また、和室には、旧家で使用していた書院や欄間などを活用し、新築でありながらどこか懐かしさを覚える空間となっている。

一般的な家は天井に断熱材を入れることが多いが、「ハウスランド社」の家は瓦と野地板の間に断熱材を入れており、屋根からの熱や



高窓から光が降り注ぐ
ぬくもりのあるダイニング。

ブルーのエアウォッシュが目を惹くキッチン。ダイニングテーブルと接続しているのが、配膳や片付けもラク!



吹き抜けがあり天井が高い
開放感のある空間を演出。

立派な家が印象的。床は浮遊りの杉でやわらかく暖かいので、冬でも裸足で過ごせるとか。気づけば家族5人がココにいる、くつろぎの空間だ